

ホラふきのポンペイウス

ホラふきだといって、いつも村の人むらひとに馬鹿ばかにされていたポンペイウスが旅たびに出て、他の村ほかにやってきました。

その村でもポンペイウスは悪い癖わるくせが出て、ホラをふきまくりました。

「この前のアテネのオリンピックでの、おれさまの活躍かつやくをみんなに見せたかったなあ。ひとつとびで20メートルぐらいは、簡単かんたんに跳んで、楽々らくらくと優勝ゆうしょうしたんだ。アテネに行くようなことがあつたら、アテネの人に聞きけおれさまの言ことってることが本当ほんとうだつて分かるんだがなあ。」

その村はひどく田舎いなかにありましたので、アテネやオリンピックだれのピックのことを知っている人など誰もいませんでした。

そして、みんながポンペイウスが言う事を何も疑わずに信じたのです。ホラふきのポンペイウスは、ますます気分きぶんがよくなり、その後もホラをふき続けました。

さて、村の人たちとポンペイウスが、山たちゅうに出かけた時たかのことです。山の途中がけに高い崖たかがありました。

「ポンペイウスさん。この崖がけから向むここの崖までちょうど20メートルありますよ。ひとつそのオレンベックのときのように、跳とんでみせて下さい。」

ひとりがそういうと、みんな口々にそれはいい考えだとはやしたてました。

ひっこみがつかなくなったポンペイウスは仕方なく向この崖ぜんにょくに向かって全力で跳しびました。そして、そのまままっさかさまに崖おの下に落しちて、死んでしまいました。

その後、この村の子どもたちは誰だれもホラをふかなくなっただけのことです。

問 この村の子供達こどもたちは、なぜホラをふかなくなったのですか。答えを書きなさい。